



長谷地区の自治会等に関するアンケート調査 結果報告

持続可能な地域づくりのための課題把握と解決の方向性指標

令和8年2月

報告の要点

1. 持続性の危機

回答者の過半数が65歳以上であり、役員のなり手不足と役員業務の負担を重く感じ、限界を超えつつあります。現状の役員体制を維持することは困難になります。



2. 見直しへの合意

回答者の大多数が「事業規模の縮小」及び「自治会の統合・再編」を必要として認識しています。現状維持ではなく、早期の見直しが望まれています。



3. 支援の必要性

「持続可能な自治会の協力体制」へ移行するため、行政からの依頼業務の削減と統合・再編に向けた支援が望まれています。



回答者の過半数が65歳以上

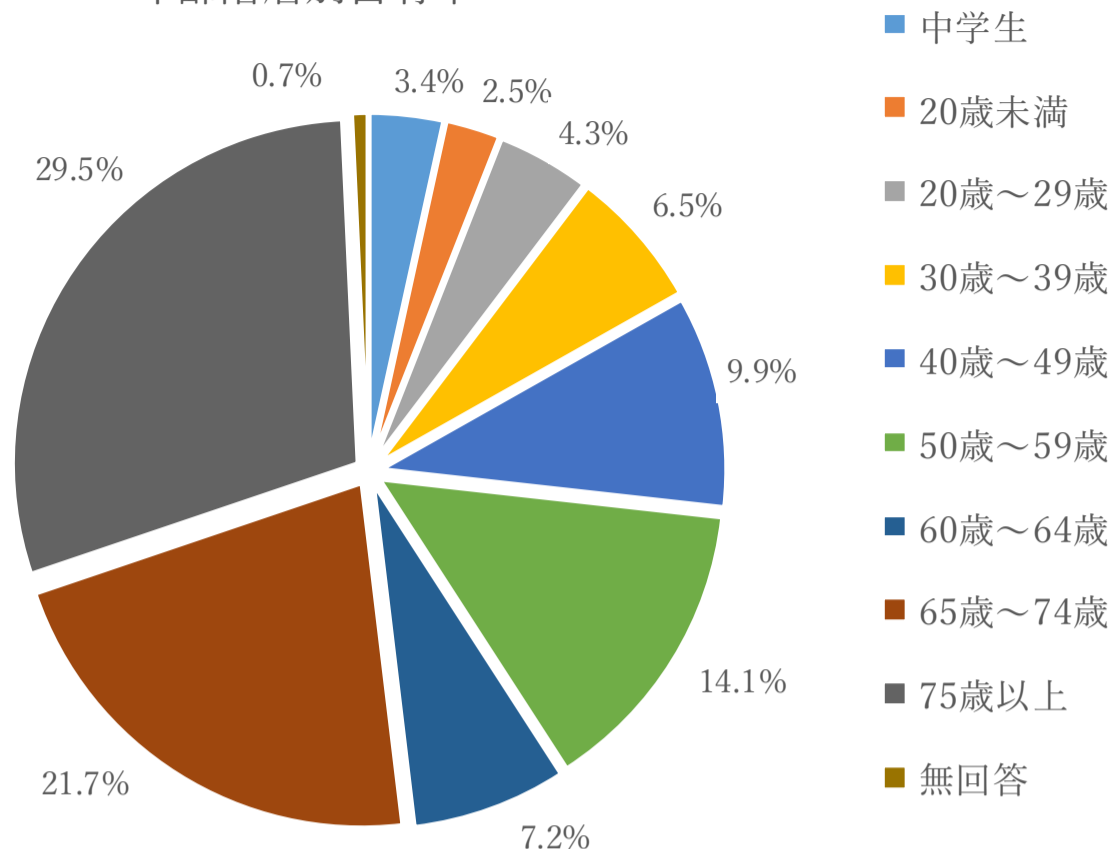
調査概要

対象者：1,276人

回答者：553人

回答率：43.34%

年齢階層別占有率



回答者の多くは、65歳以上の高齢者層(51.2%)で、もう自治会活動を担えない状況になってきている。

役員経験者の感想、適正な役員数

役員経験者の感想 (B2)

「時間的な負担があった」 (112件)



「精神的な負担があった」 (107件)



「業務量が多かった」 (46件)



適正な役員数 (B5)

「減らした方が良い」



「業務量・内容を見直した方が良い」

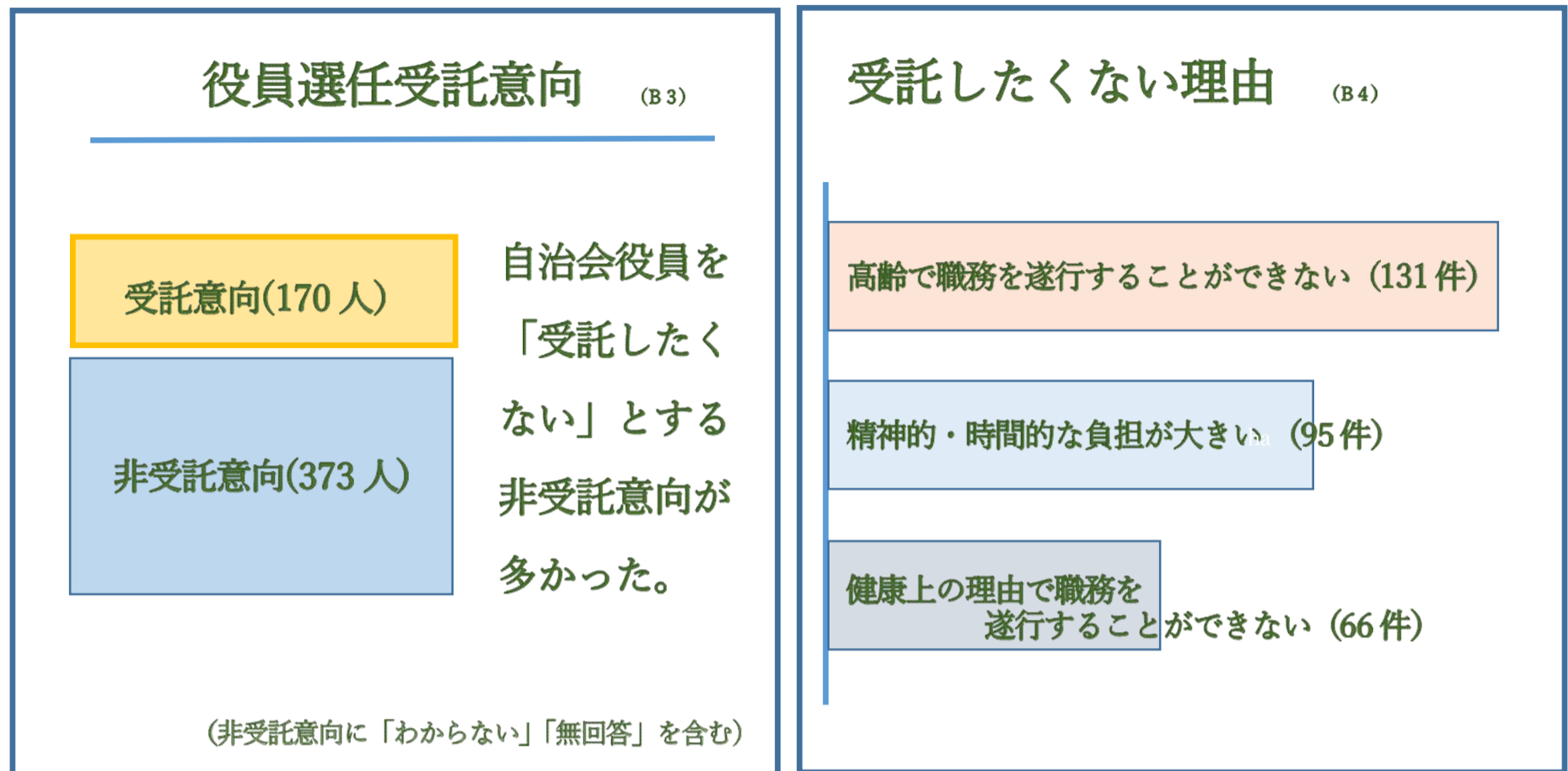


「区の部会組織を見直した方が良い」



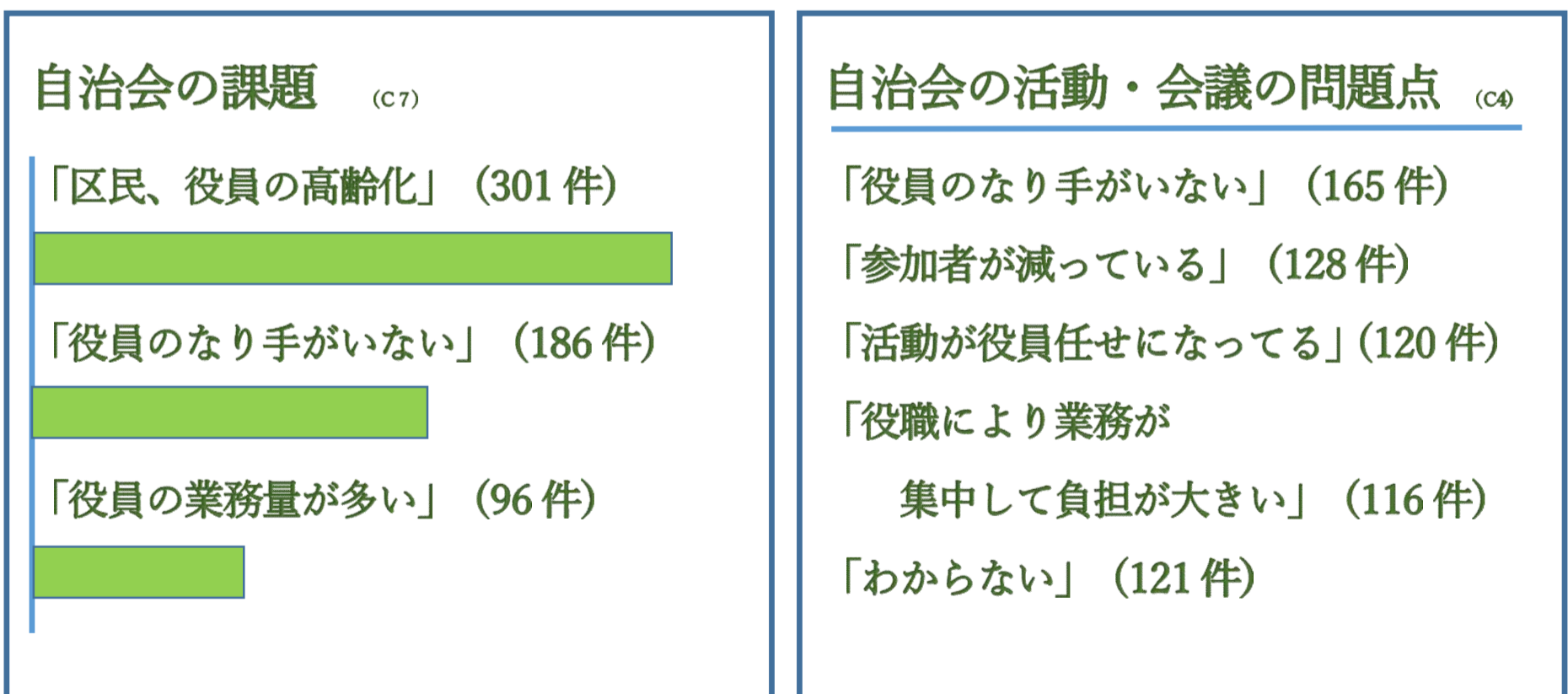
多くの役員経験者が時間的、精神的な負担を感じている。
役員数だけでなく、業務内容・組織の見直しが求められている。

役員選任受託意向と理由



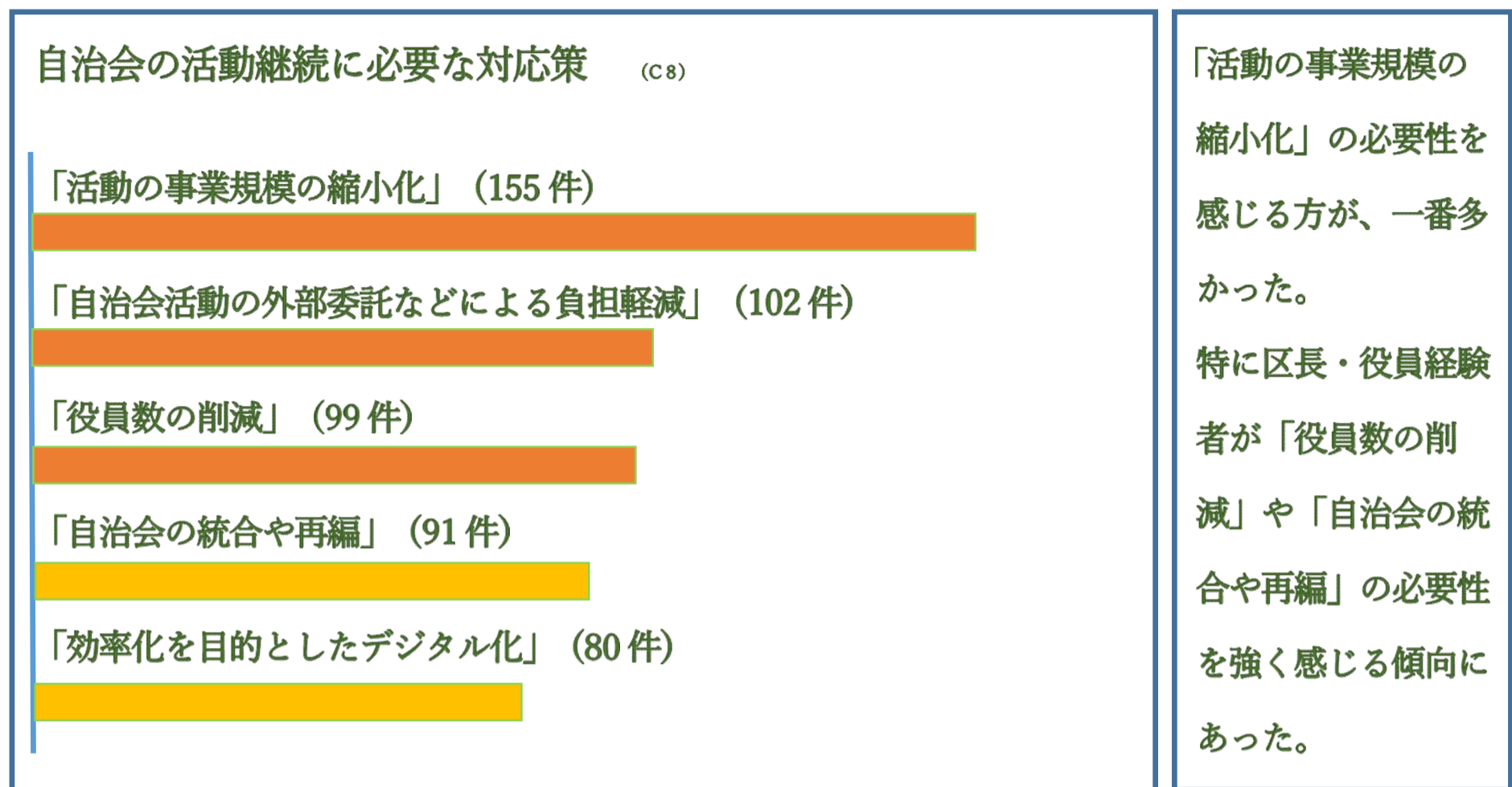
多くの方が、「高齢」「健康上の理由」及び「精神的・時間的な負担が大きい」ことから役員を受託したくないと思っている。

課題や活動・会議の問題点



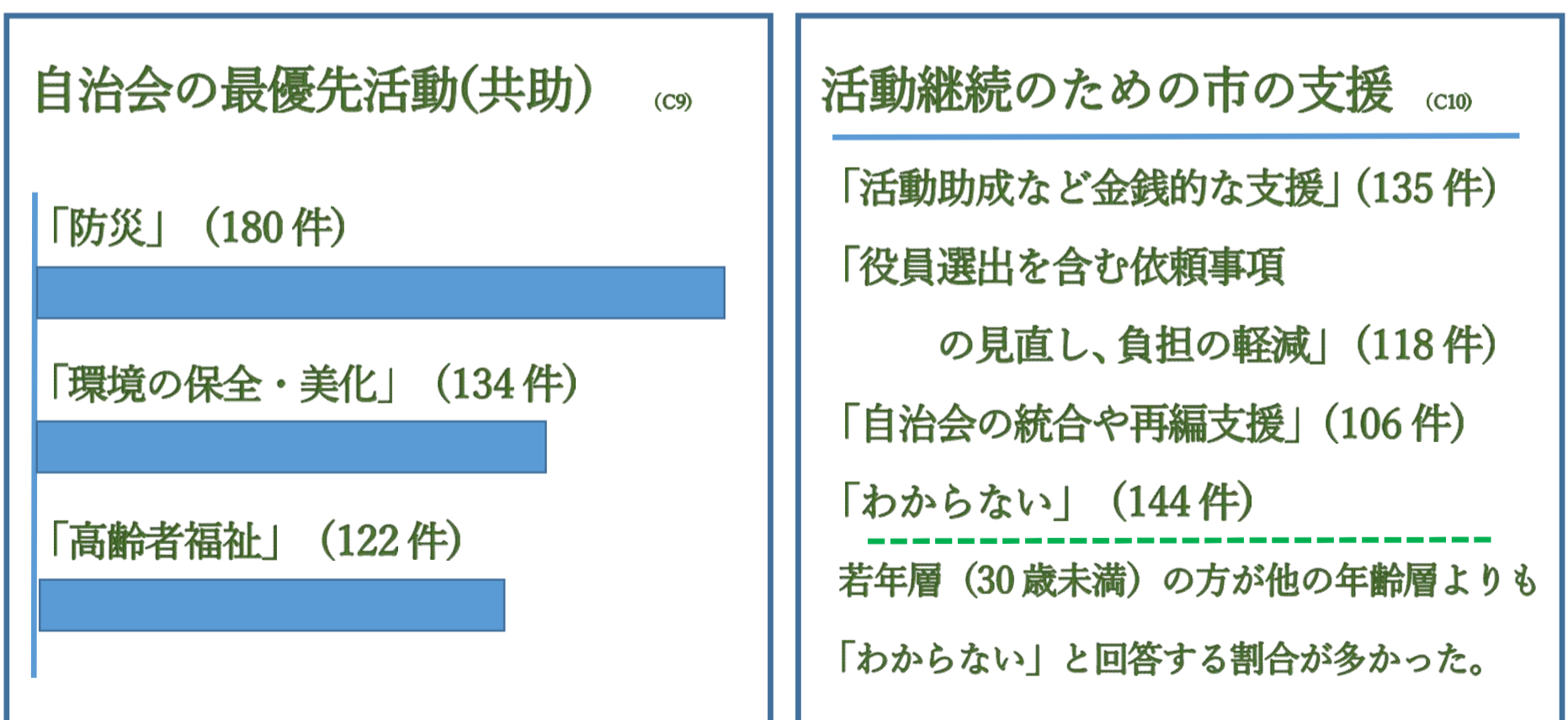
多くの方が、このままでは「区民、役員の高齢化」「役員のなり手がいない」などにより自治会の存続が難しいと感じている。

必要な対応策



多くの方が、住民規模に合った自治会へ「ダウンサイジング」(小型化)が必要と感じている。

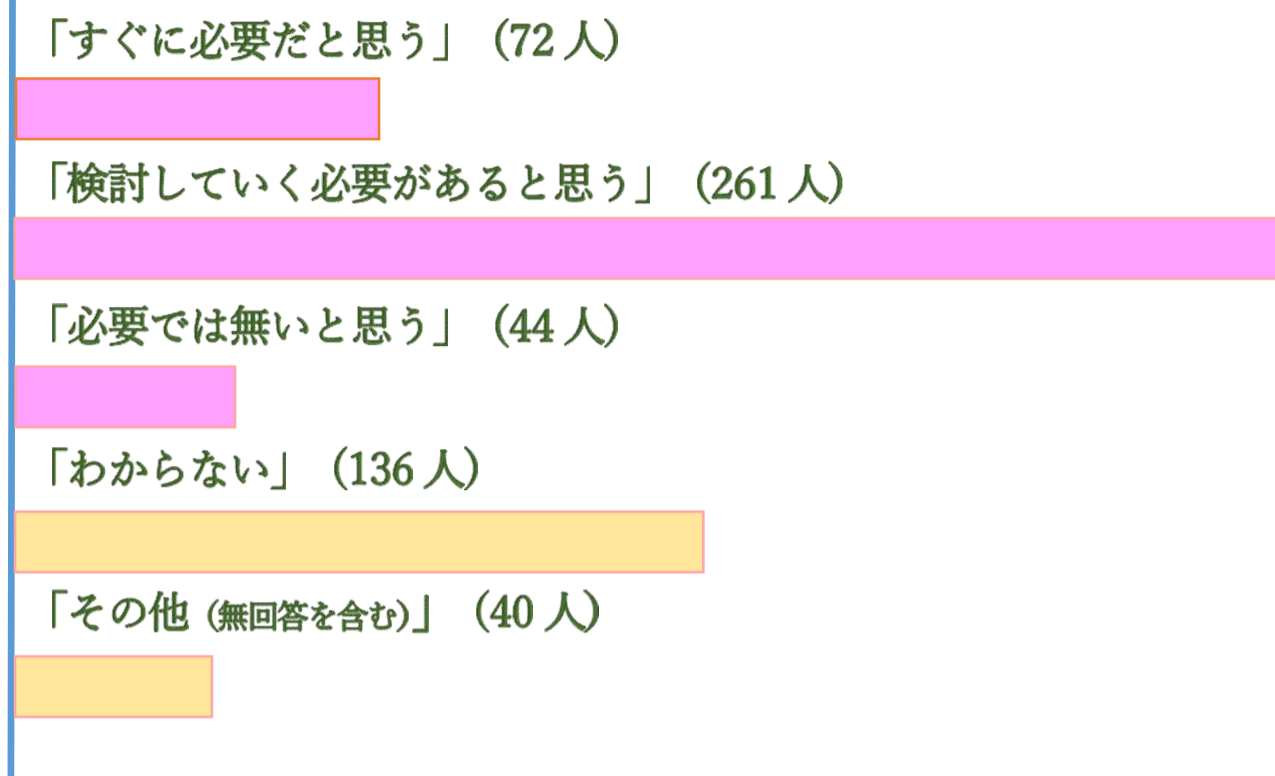
自治会の最優先活動、活動継続のための市の支援



自治会活動は安全・衛生・福祉が求められ、市は金銭的な支援だけでなく負担の軽減、統合・再編支援も求められている。

自治会の統合・再編は必要か

自治会活動の継続のために自治会の統合・再編は必要か (c11)

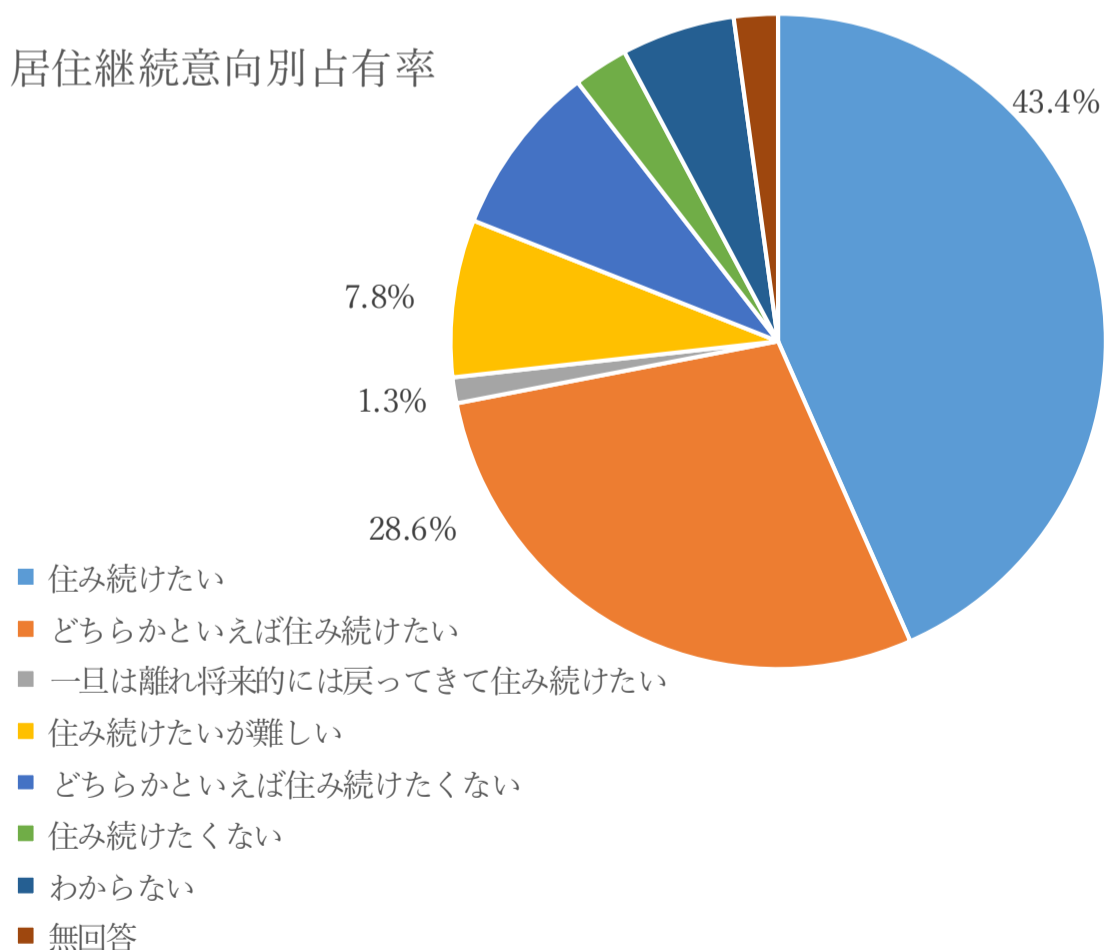


自治会活動の継続のために「活動の事業規模の縮小化」、「役員の負担軽減」や「役員数の削減」の必要性を強く感じており、さらには近い将来「統合・再編」の必要性を強く感じる傾向があった。

自治会の継続のため「統合・再編」は、避けて通れない。

居住継続意向

居住継続意向別占有率



若年層定住対策

若年世代を定住させる効果的な対策

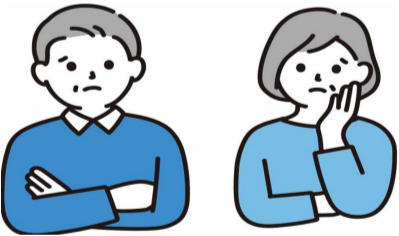


- 「買い物など日常生活の
利便性向上」(135件)
- 「小中高等学校及び保育園への
通学・通園支援」(118件)
- 「道路整備、交通利便性の向上」
(106件)

回答者の81%は、ここに「住み続けたい」と思っている。
そのために、自治会のダウンサイジング(小型化)が望まれている。

区民の声：将来への不安と、見直していくことへの希望

<p>地域で行っている共同作業や役員体制について、根本から見直して、ムダを削除することを早い段階から、始めて欲しい。</p>	<p>なぜ、人口に見合う自治会組織になっていないのか！ 長谷地区が一つの区くらいに思い切っなければ長谷は無くなる。 長谷地区が一つの区、あるいは二つの区で良いのでは。</p>
<p>自治会を存続させるには、業務を効率化するしかない。不要な業務や時代にそぐわない慣例を削るべき。</p>	<p>広範囲な区作業は有償ボランティア等に委託し、区費から支払うように出来ませんか。 時代に即した臨機応変な改革を強く望みます。</p>
<p>区費の集金を口座振替にして欲しい。回覧板や集金などは手間が掛かるので他の方法に変え廃止して欲しい。集金は負担に感じる人もいますので、見直しを進めて貰いたい。 毎年、何かしら役員をさせられているので、もうやめて欲しい。</p>	

長谷地区の自治会が直面する課題

<h3>1 担い手の枯渇</h3>  <p>高齢化率が50%を超え、物理的に役務の遂行が不可能な層が増加して人自体が不足し、限界に達しつつある。</p>	<h3>2. 組織の肥大化</h3>  <p>人口の減少に対し、役職数や組織構造が以前のまま維持され、今、そしてこれからの「身の丈」に合っていない。</p>	<h3>3. 過剰な業務</h3>  <p>集金、配布物や区活動イベント事業が役員業務の限界を超え、精神的にも時間的にも負担となっている。</p>
---	--	--

長谷地区の新しい自治会のカタチを話し合おう【短期】

活動（行事）の見直し

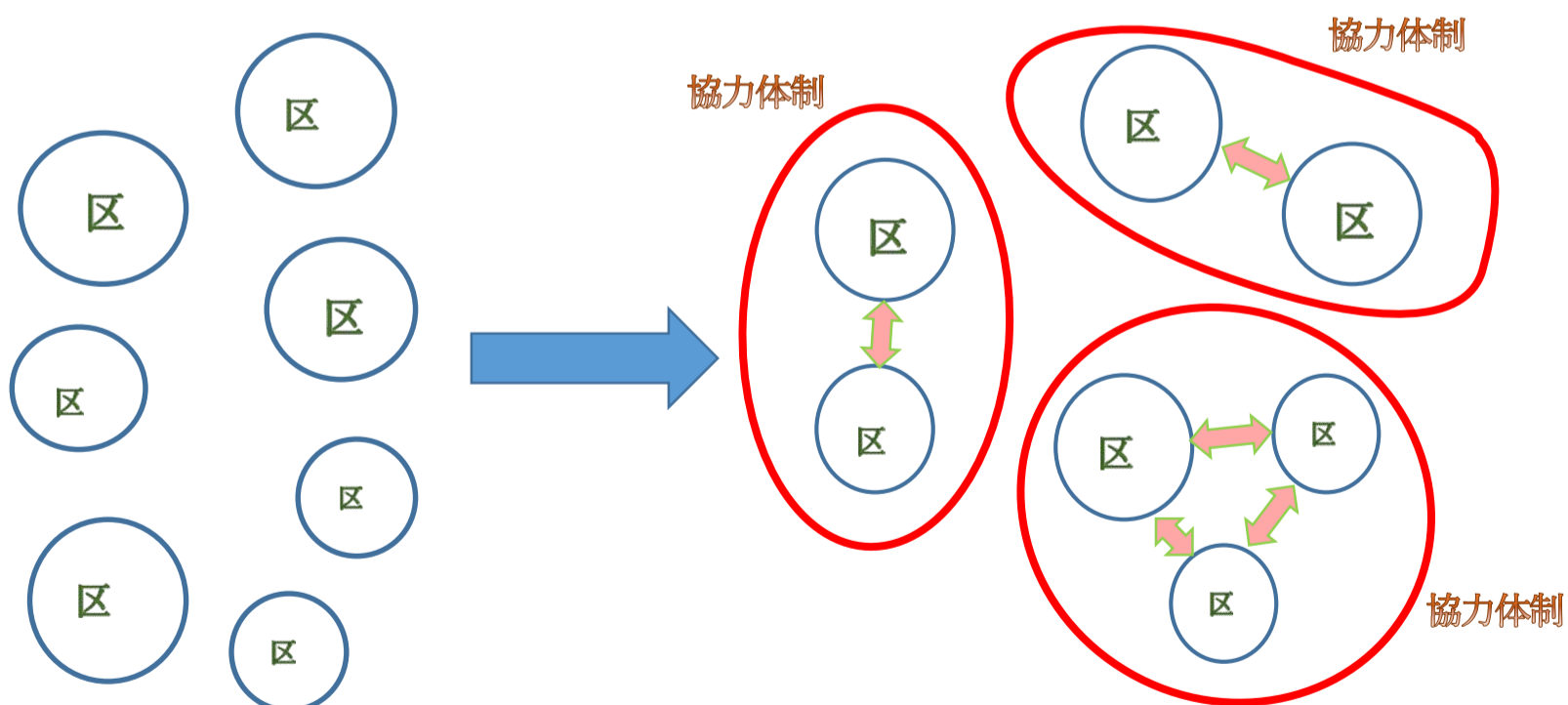
負担となっている活動（行事）の
廃止・簡素化・規模縮小
区が主催する会議の
短時間化・回数削減
併せてデジタルツールを活用して
通知・報告の効率化

役員数の見直し・削減

各区の役員定数規定の見直し
人口規模に見合った役員数
区独自の役職・名ばかりの役職の
統合・廃止
隣接する区との協力体制により
役職の廃止・役員数の削減

将来の身の丈に合った組織・役員数や役員の「精神的・時間的負担」を軽減するために、今から話し合いを始めよう。

長谷地区の新しい自治会のカタチへ移行しよう【中長期】



地区ごとの協力体制確立から広域自治区への移行を視野に入れ、ここに住み続けるための自治会組織、活動を考えていこう。

まずは、少しずつ見直してみよう

各区には、アンケート結果を踏まえて、区の組織や役員数、区の事業等について、見直しの検討を進めていただくようお願いしています。

まずは、話し合っ「やってみる」ことが肝心です。やってみないと見えてこないこと、解らないこともあります。やってみて、検証して、だめだったところは、また少しずつ見直して、より良い区の体制に形に整えていきましょう。

やるのは「私」そして「今」、始めてみましょう

見直しがアンケート結果の意向のように進んでいないのは、他人事として区役員や誰かがやってくれるだろうとまかせたり、先延ばしたり、話し合いの場や協議の時間がないということかもしれません。

見直しすべき時期は、まだ先ではなくすでに来ています。

簡単に1～2年で出来ることでもありませんから、これ以上、先延ばしせず、「今」見直しに着手しませんか。

ぜひ、みんなで話し合いましょう。

伊那市長谷総合支所